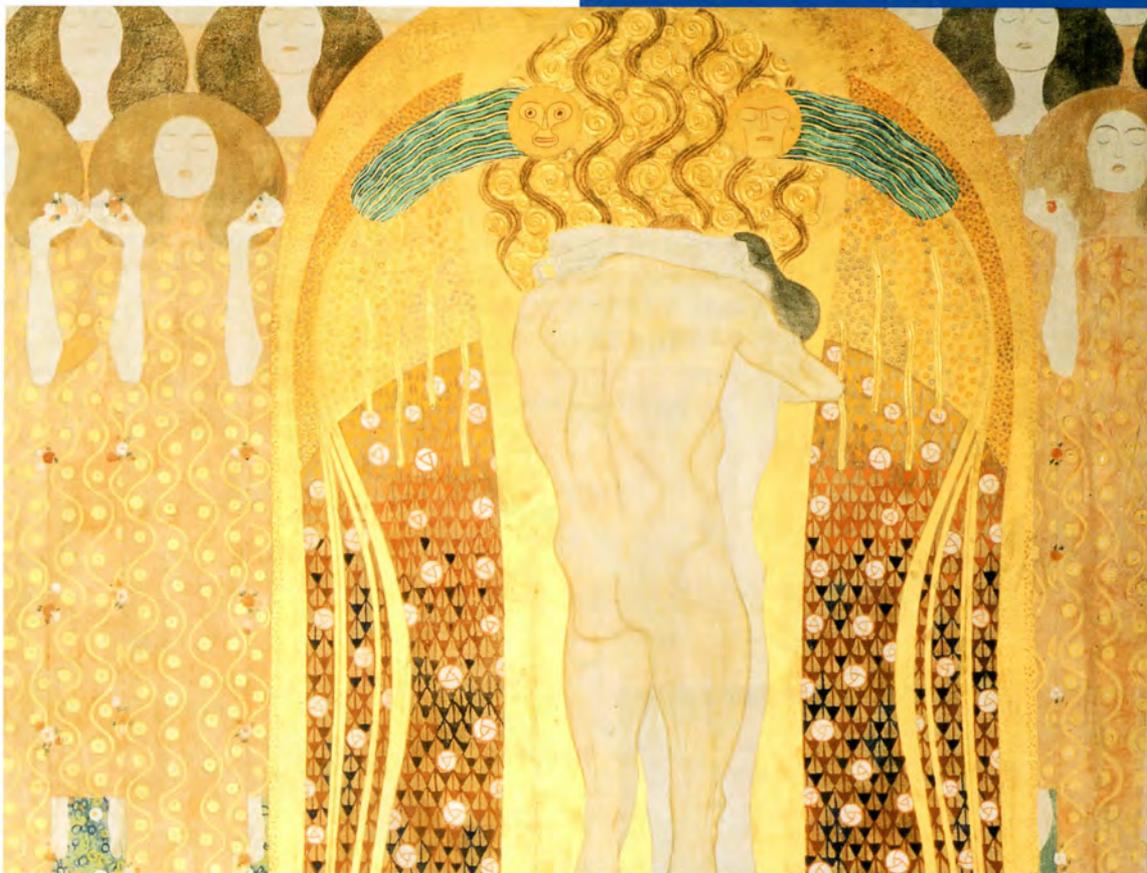


Japonisme in Vienna

ウィーンのジャポニズム展



グスタフ・クリムト
「1902年分離派展ベートーヴェン・フリーズ この接吻を世界に」(複製)
ベルヴェデーレ宮オーストリア絵画館所蔵

'95 5.23(火) ▶ 6.25(日)

開館/午前9時～午後5時(展示室入室は午後4時30分まで)
初日は午前10時オープン
毎週金曜日は午後7時まで閉館(展示室入室は午後6時30分まで)
月曜日は休館

高松市美術館

高松市紺屋町10-4 Phone (0878) 23-1711

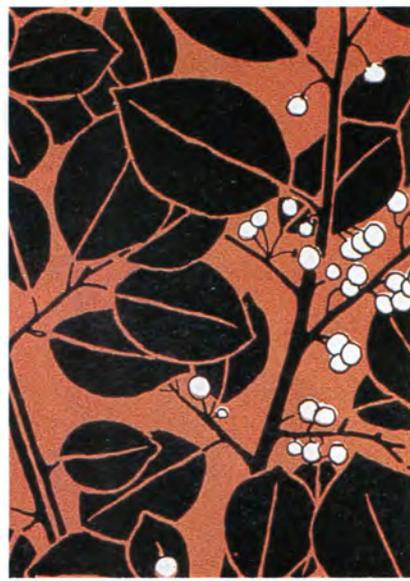
入場料/一般900円・高大生600円・小中生300円
(前売および団体20名様以上は2割引)

主催/高松市美術館・オーストリア国立工芸美術館・
四国新聞社・西日本放送

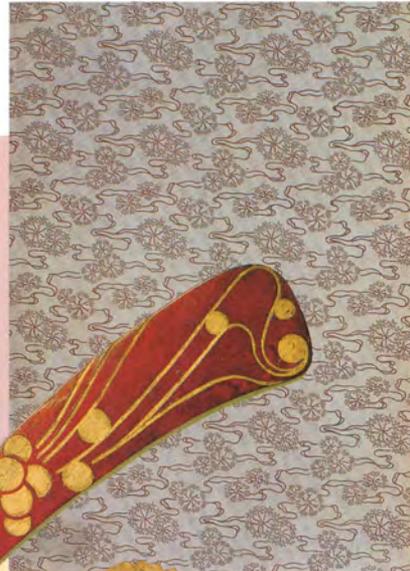
後援/オーストリア大使館 協力/日本航空

Japonisme in Vienna

19世紀後半に盛んに開催された万国博覧会を一つの契機に、ヨーロッパで日本の版画や工芸品が流行しました。このジャポニスムと呼ばれる現象は19世紀末のウィーンにもあらわれ、伝統的な歴史主義から抜け出そうとしていた若い芸術家たちを触発しました。彼らは日本美術のモチーフや構図を自分の作品に取り入れ、新しい傾向を展開していったのです。今回の展覧会では、繊細な装飾性を持つグスタフ・クリムトやエゴン・シーレの絵画、工芸デザイナーのコロマン・モーザー、建築家のヨーゼフ・ホフマンらの約250点の作品により、彼らがジャポニスムに刺激されるようになった背景、そしてその中で日本の美術から何を受容したのかをたどります。



コロマン・モーザー《夕べの静けさ》オーストリア国立工芸美術館所蔵



コロマン・モーザー《花の文様のついた見返し》オーストリア国立工芸美術館所蔵



フランツ・ツェレツニー《盆》オーストリア国立工芸美術館所蔵



エゴン・シーレ《装飾的背景の前の花》レオポルト財団美術館所蔵



マイアー《花瓶》オーストリア国立工芸美術館所蔵



ヴァルター・クレム《ペリカン》オーストリア国立工芸美術館所蔵



カール・シュビンドラー《トレイ》オーストリア国立工芸美術館所蔵



エルヴィン・プッヒンガー《音楽室のためのパベル・神話の場面》オーストリア国立工芸美術館所蔵

エルゼ・ウンガー《ペーパーナイフ》オーストリア国立工芸美術館所蔵



■講演会のお知らせ

「ウィーンのアポニスム」

(共催：鹿島美術財団)

講師：木村 重信さん(国立国際美術館館長)
馬淵 明子さん(日本女子大学教授)
園府寺 司さん(広島大学助教授)

6月4日(日) とき：午後1時30分から(約3時間の予定)
場所：美術館1階講堂
先着順100名様：入場無料

■次回展覧会のお知らせ

高松市美術館コレクション展

7月1日(土)～7月16日(日)



グスタフ・クリムト(1902年分離派展ベートーヴェン・フリーズ 幸福へのあこがれ(騎士)) (複製・部分) ベルヴェデーレ宮オーストリア絵画館所蔵